

創立120周年記念支部共通事業 提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」



創立120周年記念事業の一環として、文化的資産の宝庫である各自治体を対象に提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」を本会会員のデザインコンペティションとともに、地域の小中学生を対象とする「美しいまちなみ絵画コンクール」と一般の部を対象とする「写真コンクール」を各支部主催で実施いたします。

美しい環境・景観は与えられるものではない。市民・住民の不断の努力によってつくり上げられたものである。「美しくまちをつくる、むらをつくる」というテーマは、市民の側に主体的に美しいまち・むらをつくらうという意識をもってもらいたいという意味を込めている。市民にそのような意識をもってもらうためには、デザインによってまちやむらはどのように美しくつくられるかが示されなければならない。これを示し得るのは、建築・都市デザイナー、建築家、建築士などデザインの専門家、およびそれを目指す学生諸君であろう。さらにこのような意識を子供の時から育てるために、子供たちにもこのイベントに参加してもらい、美しいまちづくりを考える楽しさを味わってもらいたい。

本提案競技は、以上の主旨のように、デザインの持つ力、重要性を社会に対して示す場を設けようとするもので、建築・都市デザイナー、建築家、建築士、学生を対象にした美しいまちづくり・むらづくりのデザインコンペティションおよび、一般を対象とした写真コンクール、小中学生を対象(九州支部は小学生のみを対象)にした美しいまちなみ絵画コンクールを内容とした、ふるって参加をお願いしたい。

応募登録申込書はp.121にございます。

北海道支部

行事内容と目的 日本建築学会創設120周年記念事業のひとつとして、全国の支部ごとに特定の市町村を選定し、その自治体の協力を得て、まちづくりのお手伝いをするものです。

日本建築学会北海道支部では、NPO「アートチャレンジ滝川」(A.C.T)の協力を得て、特にその特徴的活動であるルール・アート・プログラム(RAP)の提案型ワークショップの企画と連動して、地域の自然環境や地域が抱える問題を、まちづくり、建築、ランドスケープの視点より具体的な提案を行って頂き、優れた作品を選考、表彰するものです。

1|提案競技

主催 日本建築学会北海道支部

共催 NPO法人アートチャレンジ滝川、

後援 滝川市

課題 「(仮称)美しいまちをつくる、むらをつくる」

市民と行政、まちづくりNPOが積極的に活動を展開するステージをどのように位置づけ、発展させるのか。滝川市の地域資源を見直し、「美しいまちやむら」に再生するプログラムの具体的提案を求めるものです。

対象サイトは、滝川市郊外の丸加高原センターゾーンにある自然観察の森を中心としたゾーンです。丸加高原は四季に応じてその姿を変えていく、鮮やかな美しさをもった高原です。20年ほど前からリゾート開発も進められ、放牧など地元の農の営みも取り入れながら、北海道らしい牧歌的な風景も生まれていますが、明確な開発コンセプトが定まっていないこともあり、近年の利用は伸び悩んでいます。自然観察の森は沢沿いであることから現在はあまり人の入らない場所です。

そこに、どのような心に響く景を生み出すことができるでしょうか。

この森の利・活用、保全と周辺エリアとの関係性を通じて丸加高原を次代に引き継ぐ魅力ある場所に充実させることを目的に提案を行ってください。提案の規模、アクティビティの想定は自由ですが、丸加高原の価値を滝川のまちづくりの中でどう位置づけるのかという広がりを持った視点を必ず加えてください。

募集方法

1 募集対象 学会北海道支部会員、準会員(学生)
グループで応募する場合は、1人以上が学会員または、準会員であること。

2 募集期間 7月1日(土) 8月31日(木)

3 募集情報 『建築雑誌』、学会支部HP、A.C.T HP、滝川市広報・HP、地元新聞

作品提出

1 提出図面等

提案図面A1判1枚

提案説明書:A4判2枚以内

2 提出先 日本建築学会北海道支部事務局

〒060-0042 札幌市中央区大通西7丁目2番地ダイヤビル2階

TEL 011-219-0702

3 提出期限 8月31日(木) 必着:提出は郵送のみとする)

展示方法

1 展示場所 太郎吉蔵(滝川市栄町2丁目、JR滝川駅より徒歩3分)

2 展示期間 9月4日(月) 9月14日(木)

表彰 優秀作品を選定し表彰する。

1 審査委員会(予定)

委員長 大垣直明(北海道工業大学教授)

委員 五十嵐威暢(彫刻家)

田村 弘(滝川市長)

石塚雅明(石塚デザイン事務所)

中井和子(中井建築研究所)

斉藤浩二(キタバランドスケープ)

2 各賞

最優秀賞1点(賞状、副賞10万円)

優秀賞3点(賞状、副賞3万円)

滝川市長賞3点(賞状、記念品)

3 表彰式 9月15日、会場:太郎吉蔵

その他

1 連動するプログラム

本提案競技に併行して、NPO法人アートチャレンジ滝川が主催するRAP(ルール・アート・プログラム)が開催されます。RAPは、滝川市の豊かな自然環境と遊休資産を生かすことをテーマにした全国対象の教育プログラムです。提案競技への応募に先立ちRAPワークショップに参加することで、より深く敷地を理解し、提案競技に生かすことが可能です。

RAPへの参加は任意です。詳細は、NPO法人アートチャレンジ滝川のホームページをご覧ください(<http://www.act-takikawa.or.jp/>)

2 作品の返却

希望者は、学会支部事務(事前に要連絡)にて返却を行う。(期間:10月2日(月) 6日(金))

郵送による返却は行わない。

2|写真・絵画コンクール

日本建築学会創設120周年記念事業のひとつとして、全国の支部ごとに特定の市町村を選定し、その自治体の協力を得て、まちづくりのお手伝いをするものです。

日本建築学会北海道支部では、滝川市および滝川市教育委員会とNPO「アートチャレンジ滝川」の協力を得て、滝川市とその近郊に住まわれる住民の皆さまに、理想とする明日のまちの姿を想像して頂きながら、その想いを写真や絵画に表して頂き、これを一同に集めて公開し、優れた作品を表彰いたします。

A|写真コンクール

主催 日本建築学会北海道支部

共催 NPO法人「アートチャレンジ滝川」

後援 滝川市

課題「滝川市の魅力と美しさ」

滝川市内や近郊の歴史や文化、自然に根ざした美しい風景やまちなみの写真を撮影してもらおう。あわせて、写真で表そうとした意図や、または将来このようなまちなみや風景にしたいなど、撮影者の思いを短い文章で書いてもらおう。

作品提出

1 形状等

A4判のプリント。白黒/カラーのいずれでもよい。未発表に限る。作品は返却しない。制作の主旨等を記載する。デジタル写真の場合には電子情報も添付する。

2 提出先

滝川市経済部商工労働課

3 受付期間 7月1日(土) 8月18日(火)

審査 優秀作品を選定し表彰する。

1 審査委員会

滝川市:市長、教育長

A.C.T.:五十嵐塾長、斉藤副塾長

日本建築学会北海道支部:2名程度

2 各賞

最優秀賞1点、滝川市長賞、五十嵐賞、佳作

3 審査月日 8月24日(木) 滝川ホール・ギャラリー、全作品展示

公開展示

1 展示場所 9月4日(月) 9月14日(木)

2 展示期間 太郎吉蔵

3 展示方法

優秀作品は拡大し、できればパネル化する。ただし、費用との関係があるので、ノウハウを伊藤氏が調べる。

4 表彰式 9月15日(金) 於・太郎吉蔵

B|絵画コンクール

主催 日本建築学会北海道支部

共催 NPO法人「アートチャレンジ滝川」

後援 滝川市教育委員会

課題「私たちが暮らす滝川市 こんなまちに住みたいな」

これから住んでみたいと思う滝川市の町並みや、あると便利で快適な使い方が出来る施設などを想像して、絵に描いてもらおう。あわせて、絵で表そうとした意図や施設の使い方など、作者の思いを短い文章で書いてもらおう。

作品提出

1 形状等 四ツ切画用紙

2 提出先 2学期始業式にて学校集約し、学校を通して教育委員会へ提出

3 提出期限 8月21日(月) 22日(火)

審査 優秀作品を選定し表彰する。

1 審査委員会

滝川市:市長、教育長

A.C.T.:五十嵐塾長、斉藤副塾長

日本建築学会北海道支部:2名程度(写真と同じ委員構成)

2 各賞

最優秀賞1点、教育委員長賞、五十嵐賞、入選50点

3 審査月日 8月24日(木) 滝川ホール・ギャラリー、全作品展示

公開展示

1 展示場所 9月4日(月) 9月14日(木)

2 展示期間 太郎吉蔵

3 展示方法 入選作品を展示する。

4 表彰式 9月15日(金) 於・太郎吉蔵

東北支部

主催 日本建築学会東北支部

共催 秋田県由利本荘市、由利本荘市教育委員会、日本建築学会東北支部秋田支所

後援予定 秋田県建築士会、秋田県建築士事務所協会、日本建築家協会東北支部秋田地域会、(株)秋田魁新報社、JA秋田しんせい、秋田県立大学

1|支部会員の部 応募規程

課題 美しくまちをつくる、むらをつくる

魅力的なまちづくり、むらづくりの計画案を提案してください。必ずしも提案の実現性にはこだわりませんが、今後の由利本荘市および対象地区である東鮎川およびその周辺のむらづくりに参考になるような説得力のある提案を望みます。

秋田県由利本荘市の概要 由利本荘市は、平成17年3月に、旧本荘市および旧由利郡内の7町が合併して誕生した新しい市です。秋田県の南西部に位置しており、南に標高2,236メートルの鳥海山、東に出羽丘陵を背し、中央を1級河川子吉川が貫流して日本海にそそいでいます。鳥海山と出羽丘陵に接する山間地帯、子吉川流域地帯(支流の鮎川、および対象地区を含む)日本海に面した海岸平野地帯の主に3地帯から構成されています。気候は、県内では比較的温暖な地域ですが、海岸部と山間部では気候条件が異なり、特に冬季においては積雪量に差がみられます。人口は90,095人(2006年3月現在)、面積は、1,209.04平方キロメートルで秋田県の10.7パーセントを占め、県内最大かつ全国的にも広大な面積を有する市の一つと言えます。面積の約75%を山林がしめており農業および林業が主な産業となっています。隣接するにかほ市にかけては、電子部品産業が集積しているほか、天然ガスなどの資源にも恵まれています。日本海側で年間を通して風が強いこともあり、西目地区の海岸沿いなどでは大規模な風力発電施設も稼働しています。

古くは、本荘藩(日本荘市など)、矢島藩(旧矢島町など)、亀田藩(旧岩城町、日本荘市の一部など)などの複数の藩で構成されていたこともあり、かやぶき屋根(矢島地区、由利地区など)の民家や町屋(本荘地区石脇、岩城地区亀田など)なども、各地区に散見することができます。子吉川および鳥海山を軸とした観光をより活性化すること、各地域(旧市町あるいは集落)の個性を生かしたまちづくり、むらづくりを推し進め、個性的な地区の連合体としての広域的な市を構成していくこと、さらには県立大学との連携による田園学園都市づくりが、新しい市の大きな目標です。

テーマ ゆとりのある暮らしを楽しむむらづくり

(中心となる対象地区:旧鮎川小学校とその周辺の集落)

今回、由利本荘市の中で提案対象地区とする旧鮎川小学校とその周辺の集落は、由利本荘市本荘市街から子吉川沿いに6kmほどさかのぼった点に位置し、鮎川が子吉川と合流する地点から若干上流にさかのぼった、谷の入口に位置しています。鮎川沿いの狭い平地に田畑が広がり、その周辺の山沿いの曲がりくねった道沿いに、山の斜面にそうように集落が点在しています。主な交通手段は、子吉川にそって整備されている国道108号および由利高原鉄道(最寄り駅は鮎川駅)で、鳥海山と連なる鳥海高原の入口として道路等が整備されています。

目立った観光施設は地区内にはありません。この地方独特のつくりのかやぶき屋根の民家や蔵などは地区内に数軒残されていますが、残念ながら歴史的価値の高い(観光地となるような)建物群の集落とは言えず、ごく平凡な東北の農村集落であると言って良いでしょう。しかし、鮎川の清流と、静かな時の流れる緑豊かな集落は、廃校となった旧鮎川小学校の校舎とともに、どこか懐かしい、心の疲れを癒してくれるやすらぎの空間と時間を、訪れる人々に与えてくれます。一方、東北地区に限らず全国の農村集落における問題として、少子高齢化および農業の衰退という側面があることも事実で、この地区の集落のありかたを検討する上で避けて通ることの出来ない問題と言えます。寒冷地ならではの、冬季の生活環境整備も重要な課題の一つとされています。

以上のような集落全体の現状および課題とともに、集落のむらづくりを考える上での重要な課題が、旧鮎川小学校の活用方法の検討です。旧鮎川小学校(平成16年由利小学校に統合廃校)は、昭和20年代につくられた木造平屋建ての建物で、地区内の隣接する集落などからみえる高台に、鮎川、由利高原鉄道の線路、鳥海高原へと続く道路などと接して、各集落から少し離れて、集落の家々を望むような位置に建てられています。集落の重要な心のよりどころとして、今後の活用が期待されていますが、まだ具体的な方針は示されていないのが現状です。

今回は、以上のような点を踏まえ、対象地区である旧鮎川小学校およびその周辺の集落を中心として、「ゆとりのある暮らしを楽しむむらづくり」というテーマに基づいて、むらづくりの提案をしてください。当然ですが、必ず提案内容に、旧鮎川小学校の活用方法を盛り込んでください。東鮎川地区および旧鮎川小学校の活用提案が含まれば、対象地区をどの範囲までひろげるかは自由とします。由利本荘市全体のまちづくりを含めた提案も歓迎します。

由利本荘市についての情報

<http://www.city.yurihonjo.akita.jp/>

由利本荘市由利総合支所の情報(旧由利町・旧鮎川小学校の情報)

<http://www.yuri.ybnet.jp/>

旧鮎川小学校およびその周辺の集落の資料提供

日本建築学会東北支部ホームページ内(掲載予定)

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

要求図面等

- 1 A1判用紙(594×841mm)1枚以内に提案をまとめてください。
- 2 表現方法は自由としますが、パネル、ボードは使用しないでください。
- 3 必須の項目や図面は特に決めていません。資料等から判断し、各応募者が自由に課題を設定し提案してください。なお、質疑応答は特に行いません。

応募資格・応募点数

- 1 応募の代表者は、本会個人会員もしくは準会員(作品提出時までの入会手続きを含む)であることとします(共同制作者は会員外でも可)。

2 個人での応募または同一メンバーで構成されるグループで応募する場合は、1点のみとします。

応募登録 p.121の応募登録申込書に必要事項(氏名、会員番号、所属、連絡先住所、電話番号)を記入のうえ、日本建築学会東北支部事務局まで郵送してください。

登録料は応募1点につき2,000円です。受取人に「日本建築学会東北支部」と記入した郵便為替を郵便局で購入し同封してください。登録締切は8月31日(木)消印有効とします。

作品提出 日本建築学会東北支部宛で、郵送または宅配便により、9月20日(水)までに送付してください(消印有効。審査会までに到着したものは受付可)。直接持参は受け取りません。応募登録申込書に必要事項を記入し、封筒に密封して作品の裏にはがせるように貼りつけてください。作品中には、作成者が推測できるマーク等を表示しないでください。

全体スケジュール

応募登録受付:8月1日(火)8月31日(木)

応募作品受付:9月1日(金)9月20日(水)

入賞発表:10月上旬頃入賞者に通知します。

表彰式:10月21日(土)午後(詳細未定。入賞者に個別にご案内します)

秋田県立大学本荘キャンパスAVホールで行います。入賞者は参加してください。

入賞作品展示会:10月21日(土)10月29日(日)

会場は秋田県立大学本荘キャンパスエントランスホール。

注)現地説明会について:具体的な整備方針が市としても未定であり、かつ自由な発想で広く提案を募集するという観点から、現地説明会は行わないこととしました。旧鮎川小学校および周辺の集落は自由にご覧ください。ただし、私有地および旧鮎川小学校内部には、立ち入らないでください。見学および調査の際には、地域住民の日常生活に十分ご配慮ください。

審査委員会

委員長 安原盛彦(秋田県立大学建築環境システム学科教授)

委員 北田透(日本建築学会東北支部秋田支所長)

茂木 聡(株)コスモス設計取締役次長)

加藤一成(有)加藤一成計画事務所

日本建築家協会東北支部秋田地域会会長)

柳田 弘(由利本荘市長)

賞

最優秀賞(日本建築学会東北支部長賞)1点

(賞状、副賞10万円、記念品)

優秀賞2点(賞状、副賞5万円、記念品)

由利本荘市長特別賞1点(賞状、副賞5万円、記念品)

著作権 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者は本設計競技の主旨に照らして、応募作品の公表等を使用することができるものとします。

作品の返却

返却を希望する方は、東北支部事務局までお越してください。なお表彰式より3カ月を経過したものは処分いたします。

2|一般/小中学生の部 応募規程

以下の課題で、は一般の部、は小中学生の部

課題 ここにしかない個性豊かな景観づくり 由利本荘市の魅力と美しさ

「由利本荘市の魅力と美しさ」写真コンクール(一般向け)

由利本荘市内の歴史や文化、自然に根ざした美しい風景やまちなみの写真を撮影してください。あわせて、そう思う理由、または将来こ

のようなまちなみや風景にしたいなど、あなたの思いを書いてください。

「私たちが暮らす由利本荘市 こんなまちに住みたいな」 絵画コンクール(小学校、中学校向け)
将来あなたが住んでみたい、理想の由利本荘市を自由に描いてください。

提出作品

1 写真コンクール

撮影した写真と、写真へのあなたの思いを書いたコメントなどをA3判(297mm×420mm)1枚以内にまとめてください。なお、レイアウト、写真の枚数や大きさ、コメントの字数などには特に制限はありません。デジタルカメラでの撮影も可とします。

2 絵画コンクール

四ツ切画用紙(380mm×540mm、縦書き、横書きいずれも可)以内の大きさのもの1枚。画材として油絵、水彩画、パステル画、クレヨン画、色鉛筆画などのほか、技法としてコラージュや半立体表現(厚さ10mm程度まで)も可とします。ただし壁面掲示に耐えられるのとしてください。

応募資格

1 写真コンクール

特になし(小中学生、高校生、大学生も含む)

2 絵画コンクール

由利本荘市の小学校、中学校に通う児童・生徒とします。

応募登録

登録の必要はありません。

作品の提出方法

1 写真コンクール

提出先:由利本荘市企画調整課まで持参(9月1日(金)9月20日(水)の平日9:00-17:00まで)または郵送・宅配便(9月20日(水)消印有効)により提出してください。作品の裏に住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を記入してください。

2 絵画コンクール

提出先:学校を通して由利本荘市教育委員会に9月20日(水)までに提出してください。作品の裏に学校名・学年・氏名(ふりがな)を記入してください。

全体スケジュール

応募作品受付:9月1日(金)9月20日(水)

入賞者の発表:10月上旬ごろ

(写真コンクール:入賞者に通知します、絵画コンクール:応募者の学校に通知します)

表彰式:10月21日(土)午後(詳細未定。入賞者に個別にご案内します)

秋田県立大学本荘キャンパスAVホールにて行います。入賞者は参加してください。

入賞作品展示:10月21日(土)10月29日(日)

会場は秋田県立大学本荘キャンパス

審査委員会

地元美術・写真関係者、建築教育関係者等

賞

一般の部(写真コンクール)

最優秀賞(由利本荘市長賞)1点

(賞状、図書カード1万円、記念品)

優秀賞(由利本荘市教育長賞)1点

(賞状、図書カード5千円、記念品)

優秀賞(日本建築学会東北支部長賞)1点

(賞状、図書カード5千円、記念品)

入選5点(賞状、図書カード2千円、記念品)

小中学生の部(絵画コンクール)

最優秀賞(由利本荘市長賞)3点

(賞状、図書カード5千円、記念品)

優秀賞(由利本荘市教育長賞)3点

(賞状、図書カード3千円、記念品)

優秀賞(日本建築学会東北支部長賞)3点

(賞状、図書カード3千円、記念品)

入選18点(賞状、図書カード千円、記念品)

著作権

応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者は本設計競技の主旨に照らして、応募作品の公表等をする権利を使用することができるものとします。

作品の返却

1 写真コンクール

返却を希望する方は、由利本荘市企画調整課までお越しください。

なお、表彰式から3カ月を経過したものは処分します。

2 絵画コンクール

作品展示会終了後に学校を通して返却します。



関東支部

主催 日本建築学会関東支部

共催 足立区

後援(予定) 足立区教育委員会、足立区まちづくり推進委員会、(財)足立区まちづくり公社、東京都、東京都地下鉄(株)、足立写真連盟、足立朝日、足立よみうり新聞、ケーブルテレビ足立区、東京都建築士事務所協会足立支部

1|支部会員の部 応募規定

課題 美しくまちをつくる、むらをつくる

魅力的なまちづくり、むらづくりの計画案を提出してください。必ずしも提案の実現性にはこだわりませんが、今後の足立区のまちづくりに参考になるような説得力のある提案を望みます。

東京都足立区の概要

足立区は、東京23区の北東端に位置しています。東は中川をはさんで葛飾区、南は隅田川をはさんで北区、荒川区、墨田区、西は埼玉県川口市、鳩ヶ谷市、北は草加市、八潮市、に接しています。区総面積は53.20km²、23区の約9%に当たり世田谷、大田区について3番目の広さです。

足立区は、一般に西新井大師が良く知られています。平安時代、空海により創建されて以来、大師は庶民の参詣で賑っていますが、かつては学問の場としても名を馳せていました。江戸時代、足立一帯は田畑が広がる、近郊の豊かな穀倉地帯でした。そこに千住が日光街道の宿場として定められ栄えたことから、市街地としての発展が始まります。明治になると、東京が拡大するにつれて田園風景の中に住宅や工場が建ち並んでゆき、大正の関東大震災では被害が比較的少なくて済んだため、足立区へ移り住む人が増えました。また、昭和の始めには、江東、墨田など東京の下町を水害から守る目的で、明治末に着工した荒川(放水路)が完成しています。

戦後になり、高度成長期において足立区も急速に都市化が進み、土地区画整理事業が盛んに行われました。急増する東京の人口を支えるため、都営住宅や公団、公社の集合住宅が大量に建設されています。昭和40年代には区内の大規模工場等が区外へ移転し、40

年代の終りに区を東西に横断する環状7号線が開通して、50年代頃に現在の足立区の基本的な形がほぼ出来あがりました。区の人口は、ここ数年64万人程度で推移し23区中5番目となっています。

近年では平成12年に、放送大学が千住に移転、平成16年には「北千住駅西口再開発」が完了し、以前にも増して賑いを見せています。さらに平成18年9月には「東京藝術大学千住キャンパス」が開校予定、また平成17年には区の東部に「つくばエクスプレス」が開通し、西部では「日暮里・舎人線」が平成19年度に開通予定で、足立区は新たな転換期を迎えています。

足立区のHP <http://www.city.adachi.tokyo.jp/index.html>

テーマ 住んでみたい行ってみたいまちづくり

足立区は都心に近く、河川や緑地などの自然が豊かで、人のあたたかみが残っています。しかし、一般的に明確な地域イメージが不足しており、情報発信の少なさと相俟って、魅力ある環境として受け留められていない傾向にあります。多くの人がそこに住んでみたいと感じるような、そしてそこへ行ってみたいと思うような、景観的にも美しいまちづくりを提案してください。

対象地は、日暮里・舎人線沿線の「舎人周辺地域」「舎人公園・北足立市場」「江北北部緑道公園」「新大師道沿道」「扇周辺地域」とします。対象地の一部または全部に対する提案、いずれかのひとつの地域に対する個別の提案や、いくつかの地域にまたがる提案でも構いません。計画範囲は自由に設定してください。

日暮里・舎人線は、荒川区日暮里と足立区舎人の間約10kmを結ぶ新交通システムで、車両は10mの高架上を走り、区内9箇所に新駅が設けられます。新交通という新たな軸線の形成により、沿線地域の土地利用は活発化していくと考えられます。今後のまちづくりでは地域ごとの特色ある方向づけが不可欠です。歴史を偲ばせる「舎人」、緑の広がる「舎人公園」と青果や花卉で溢れる「北足立市場」、桜の連なる「江北北部緑道公園」、名刹へ誘う「新大師道」、まだ農地が残る「扇」地域など、対象地はそれぞれ異なる要素や可能性を備えているものの、それらが十分に活かされていないのが現状です。

都心からのアクセスが改善されるのを機に、沿線地域イメージを向上させ、多元的な地域の価値を醸成してゆく必要が生じており、こうした状況を踏まえたまちづくりの提案を求めます。

要求図面等

- 1 A1判用紙(594×841mm)1枚以内に提案をまとめてください。
- 2 表現方法は自由としますが、パネル、ボードは使用しないでください。
- 3 必須の項目や図面は特にありません。資料等から判断し、各応募者が課題を設定し提案してください。なお、質疑応答は特にありません。

応募資格・応募点数

- 1 応募の代表者は、本会関東支部所属の個人会員もしくは準会員(作品提出時までの入会手続き者を含む)であることとします(共同制作者は会員外でも可)。
- 2 個人での応募または同一メンバーで構成されるグループで応募する場合は、1点のみとします。

応募登録 p.121 応募登録申込書に、必要事項(氏名、会員番号、所属、連絡先住所、電話番号)を記入のうえ8月22日(火)までに日本建築学会関東支部事務局へ郵送してください(消印有効)。なお、登録料(郵便為替)と資料送付用封筒(A4判封筒に登録者の宛先を記入し、390円分の切手を貼ったもの)を同封してください。登録者には、足立区に関する資料を送付します。登録料は応募1点につき2,000円です。郵便為替を郵便局で購入し、受取人に日本建築学会関東支部と記入して同封してください。

作品提出 郵送または宅配便により、日本建築学会関東支部宛に、9月29日(金)までに送付してください。応募登録申込書に必要事項を記入し、封筒に密封して作品の裏にはがせる貼り付けてください。作品中には、作成者が推測できるマーク等を表示しないでください。

全体スケジュール

応募登録受付: 7月7日(金) 8月22日(火)

現地説明会: 7月22日(土) 10:30-

足立区庁舎ホール前(足立区中央本町1-17-1)に集合してください。足立区職員の方が現地を案内して説明します(アクセス:東武伊勢崎線梅島駅下車徒歩10分)

問合せ先: 足立区都市計画課(TEL03-3880-5738)

なお、現地説明会后、「第10回リレー見学会・シンポジウム」開催を予定します。

応募作品受付 9月11日(月) 9月29日(金)

入賞者発表 10月末

表彰式 会場: 足立区庁舎ホール 11月25日(土)

入賞作品展示会 11月20日(月) 11月25日(土)

審査委員会

委員長 倉田直道(工学院大学教授)

委員 足立区都市整備部長

根上彰彦(日本大学教授)

宮崎十三(東京都建築士事務所協会足立支部長)

片桐正夫(日本建築学会関東支部長)

賞

最優秀賞 1点(賞状、副賞30万円)

優秀賞 3点(賞状、副賞5万円)

足立区長賞 3点(賞状、記念品)

著作権 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者・共催者は本提案競技の趣旨に照らして、応募作品の公表等をする権利を使用することができるものとします。

作品の返却 返却を希望する方は、支部事務局までお越しくください。なお表彰式より3カ月を経過したものは処分いたします。

2|一般/小中学生の部 応募規定

は一般の部、は小中学生の部

「足立の魅力と美しさ」写真コンクール

足立区の歴史、文化、行事、自然など、暮らしのなかで目に触れた美しい風景や、街並み・景観などの写真を撮影してください。また、合せてその写真に対するコメントや、将来はこのようなまちや風景にしたいなど、あなたの思いを寄せてください。コメントの字数に制限はありません。

提出作品 四つ切1枚。デジタルカメラでの撮影も可とします。ただし、インクジェットプリント出力は不可。

応募資格 特になし

応募登録 登録の必要はありません

作品提出 足立区都市計画課まで持参(9月11日(月) 29日(金)の平日9:00-17:00まで)または郵送・宅配便(9月29日(金)消印有効)により送付してください。作品の裏に住所・氏名(ふりがな)年齢・電話番号を記入してください。

足立区都市計画課

〒120-8510 足立区中央本町1-17-1(TEL03-3880-5738)

「私達が暮らす足立 こんなまちに住みたい」絵画コンクール

将来あなたが住んでみたい、理想の足立区を自由に描いてください。

提出作品 四つ切画用紙1枚

応募資格 足立区内在住・通学の小・中学生

応募登録 登録の必要はありません。

作品提出 区内の学校に通う児童・生徒は学校を通して足立区都市計画課に提出してください。その他の児童・生徒は足立区都市計画課まで持参(9月11日(月)29日(金)の平日9:00-17:00まで)または郵送・宅配便(9月29日(金)消印有効)により送付してください。作品の裏に学校名・学年・クラス・氏名(ふりがな)を記入してください。

全体スケジュール

応募作品受付 9月11日(月)29日(金)

入賞者の発表 10月末

表彰式 足立区庁舎ホール 11月25日(土)

入賞作品展示 11月20日(月)11月25日(土)

審査委員会 地元美術関係者、教育関係者、足立区まちづくり推進委員会など。

賞

一般の部

優秀賞 1点(賞状、1万円の図書券)

足立区長賞 2点(賞状、5千円の図書券)

入選 5点(賞状、3千円の図書券)

小中学生の部

優秀賞 2点(賞状、5千円の図書券)

足立区長賞 2点(賞状、3千円の図書券)

足立区教育委員会賞 3点(賞状、2千円の図書券)

入選 20点(賞状、1千円の図書券)

著作権 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者・共催者は、応募作品の公表等をする権利を使用することができます。

作品の返却

返却を希望する方は、足立区都市計画課までお越しください。なお、表彰式から3カ月を経過したものは処分いたします。

作品展示会終了後に学校を通して返却します。

東海支部

主催 日本建築学会東海支部

共催 愛知県犬山市、犬山市教育委員会

後援 愛知建築士会、愛知県建築設計事務所協会、日本建築家協会東海支部

「美しいまち」は、人々の心の中によい思い出として記憶されるものです。旅人には、もう一度行ってみたい、住んでみたいと思うまちでしょうし、住人には、ずっと住み続けたい、いつまでも美しくあってほしいと思うまちでしょう。人々が「美しいまち」に出逢った時、そこに心地よさを感じ、その魅力に惹きつけられます。佇んでいたいと思ったり、散歩したいと思ったり、住んでみたいと思うことでしょう。

「美しいまち」は、美しい環境や美しい景観を備えています。住民の生活は明るく活気に満ち、その様を見た人には、心が弾むものであるとともに、いつしか落ち着き安定した気持ちをもたらします。住民の、不断の努力の積み重ねによって築きあげられた生活の結晶ともいえる、豊かな文化や歴史を感じることができるものでしょう。

このような「美しいまち」は、住民の日常の充実した生活意識によってはぐまれています。「美しいまち」には、住民の主体的なまちづくりの意識が不可欠です。大人だけでなく、子どもの時から美しいまちをつくらうという意識を育てること、美しいまちづくりの楽しさを

味わってもらうことが必要です。さらに、より「美しいまち」の実現にはそのための正しい道筋が示されること、すなわち美しいまちのデザインが示される必要があります。

本提案競技は、以上の主旨のもとにデザインの持つ力と重要性を社会に対して示す場を設けるとともに、住民の方々には、自分のまちの良さの再認識や、美しいまちづくりの楽しさを認識していただくことを主眼として実施するものです。

具体的内容は(1)建築・都市デザイナー、建築家、建築士、学生を対象にした美しいまちづくりのデザインコンペティション、(2)一般市民を対象とした写真コンクール、(3)小中学生を対象とした絵画コンクールです。

1)まちづくり提案コンペ(会員の部) 応募規定

課題 『美しくまちをつくる』

魅力的なまちづくりの計画案を提案してください。必ずしも提案の実現性にはこだわりませんが、今後の犬山市のまちづくりの参考になるような説得力のある提案を望みます。

愛知県犬山市の概要 犬山市は、愛知県の最北端で名古屋から電車で30分程の位置にあり、北は木曽川を隔てて岐阜県各務原市・坂祝町、東は岐阜県可児市・多治見市、南は愛知県小牧市・春日井市、西は扶桑町・大口町と隣接しています。

市の西部は、濃尾平野の一部をなし市街地、農地、工業地として利用され、市の北を流れる木曽川の一帯は名勝に指定されており、川下りや伝統的な鶺鴒も行われています。東部の丘陵地は、緑豊かな里山が広がり、天然記念物のヒトツバタゴ自生地や人工池の入鹿池が所在します。古代から小集落が発展し、東之宮古墳や青塚古墳などの遺跡が残されています。戦国時代には織田氏の所領となり、江戸時代には尾張藩付家老である成瀬氏の城下町として発展し、国宝犬山城とともに往時の町割りが現在も見られます。明治から数次の合併を経て、昭和29年4月1日に犬山町、城東村、羽黒村、楽田村、池野村の1町4村が合併し、犬山市が発足し現在に至っています。

第4次犬山市総合計画では、将来の都市像を「木曽の流れに古城が映え ふれあい豊かな もりのまち 犬山」として、次のようなまちづくりに取り組んでいます。一つ目は、国宝犬山城を中心とした「犬山城下町」での観光をふくめたまちづくりです。犬山城下町は、城が築城されるとともに発展し、国の重要無形民俗文化財に指定された「犬山祭」と共に町衆の心意気によってその伝統が受け継がれおり、歴史的町並みを活かしたまちづくりに取り組んでいます。

二つ目は、木曽川の扇状地における扇の要にあたる東部丘陵と呼ばれる地域での里山を活かしたまちづくりです。誰もが身近な里山を気軽に感じられる環境の中で、犬山の里山を守っていくことを目的に「犬山市里山学センター」を建設し、環境意識の向上や自然を通じた交流に取り組んでいます。

三つ目は、既成市街地の活性化に向けたまちづくりです。かつての町村合併の名残から市街地が分散し、特に楽田駅や羽黒駅周辺の市街地では活力の低下が進んでいます。それらを改善するために地元住民が自分たちのまちをどうしていくかを検討し、出来ることから実施していく取り組みを行っています。

犬山市のホームページ <http://www.city.inuyama.aichi.jp/>

テーマ いつまでも住み続けたい「美しいまち」

近年、少子高齢化が進むにつれて、かつて郊外へ移り住んでいった人々が利便性を求めて、再び都心部へ戻ってくるケースが増えているようです。しかし、日々の生活の中では、「利便性」だけでなく、愛着を持って住み続けたいと思わせるような「魅力」が必要ではないでしょうか。

犬山市は、名古屋市から鉄道で30分程という好位置にあり、歴史

を誇る国宝犬山城、雄大な自然の中をとうとうと流れる木曾川、緑豊かな丘陵と田園、そして日々の生活の綾をなす「まち並み」など、表情豊かなまちです。これらの多くの資源や要素を活かしてあらゆる世代や趣味、趣向に合わせたライフスタイルを提供し、「終の棲家(ついのすみか)」として暮らし続けたいような「美しいまち」を自由な発想で提案してください。

対象地区は、江戸時代の町割りが今なお残る「犬山城下町地区」、自然を生かした里山が残る「池野・今井地区」または「城東・栗栖地区」、街道や鉄道駅を中心に自然な広がりを見せる「羽黒・楽田地区」などを対象に、計画範囲は自由に設定してください。

要求図面等

- 1 A1判用紙(594×841mm)1枚以内に提案をまとめてください。
- 2 表現方法は自由としますが、パネル、ボードは使用しないでください。
- 3 必須の項目や図面は特に決めていません。資料等から判断し、各応募者が課題を設定し提案してください。

応募資格・応募点数

- 1 建築・都市デザイナー、建築家、建築士、学生を対象とします。ただし、個人または応募の代表者が、本会東海支部の所属個人会員もしくは準会員以外の方は、応募登録時に1,000円の手数料が必要です。
- 2 個人での応募または同一メンバーで構成されるグループでの応募は1点とします。

応募登録 p.121の**応募登録申込書**に、必要事項を記入のうえ、8月10日(木)当日消印有効までに日本建築学会東海支部事務局まで郵送してください。なお、会員もしくは準会員以外の方は、現金書留郵便にて1,000円と応募登録申込書を郵送してください。

〒464-0008 名古屋市中区栄4丁目3番26号(昭和ビル5F)

日本建築学会東海支部事務局 宛

作品提出 日本建築学会東海支部宛にて郵送等により、9月30日(土)(当日消印有効)までに提出してください。作品提出書に必要事項を記入し、封筒に密封して作品の裏にはがせるように貼りつけてください。作品中には、作成者が推測できるマーク等を表示しないでください。

なお、応募登録申込書と作品提出書の用紙は東海支部のホームページに掲載してあります。

東海支部 <http://news-sv.aij.or.jp/tokai/>

全体スケジュール

応募登録受付 7月10日(月) 8月10日(木)

応募作品受付 9月11日(月) 9月30日(土)

入賞発表 10月下旬頃入賞者には通知します。

表彰式 11月25日(土)13:30-

犬山市国際観光センター「フロイデ」で行います。入賞者は参加してください。

入賞作品展示会 11月25日(土) 12月3日(日)

犬山市国際観光センター「フロイデ」1階エントランスホールで展示予定です。

審査委員会

委員長 曾田忠宏(愛知工業大学教授)

委員 石田芳弘(犬山市長)

梅田 俊比古(愛知建築士会相談役)

加藤史郎(豊橋技術科学大学教授)

河田克博(名古屋工業大学教授)

各賞

最優秀賞 1点(賞状、副賞10万円)

優秀賞 3点(賞状、副賞5万円)

犬山市長賞 3点(賞状、記念品)

著作権 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属します。主催者は本設計競技の主旨に照らして、応募作品の公表等を使用することができるものとします。

作品の返却 返却を希望する方は、支部事務局までお越しください。なお表彰式より3カ月を経過したものは処分いたします。

その他 この提案競技に関する質疑応答は行いません。なお、希望される方には、送料応募者負担で、犬山市第4次総合計画概要版を送付します。詳しくは犬山市都市整備部建築課まで問い合わせください。TEL0568-61-1800 内線304305

2|写真(一般)・絵画コンクール(小中学生) 応募規定

A|写真コンクール(一般の部)

課題 犬山のまちの魅力、まちの活力

犬山が築き上げてきた歴史・伝統・文化や自然環境を、後世に伝えていくためにはどのようにしていけばよいのかを考えるきっかけとして、犬山の魅力的な景観や犬山の活力ある場所などを写真で撮影していただき、その箇所の風景やまち並みに対してのあなたの思いを書き添えてください。

提出作品 撮影した写真とタイトル、写真へのあなたの思いを書いたコメントなどをA3判(297mm×420mm)の用紙1枚にまとめてください。なお、レイアウト、写真の枚数や大きさ、(デジタルカメラ撮影可)、コメントの字数など、特に制限はありません。

また、A3判用紙の裏面には、住所・氏名(ふりがな)年齢・電話番号をご記入ください。

応募資格・応募登録 特にありません。どなたでも応募できます。また、事前登録の必要はありません。

作品の提出方法 応募作品は、犬山市建築課まで直接持参(9月1日(金)9月15日(金)の平日8:30-17:00まで)していただくか、郵送等によりお送りください(期限までに必着とします)。

各賞

優秀賞 1点(賞状、副賞1万円の図書券)

犬山市長賞 2点(賞状、副賞5千円の図書券)

入選 5点(賞状、副賞3千円の図書券)

作品の返却 返却を希望する方は、犬山市建築課までお越しください。なお、表彰式から3カ月を経過したものは処分いたします。

B|絵画コンクール(小中学生の部)

課題 私たちのまち犬山 こんなまちでいてほしい。こんなまちになるといいな。

将来あなたが住み続けたい、理想の犬山を自由に描いてください。

提出作品 四つ切画用紙(380mm×540mm、縦書、横書のいずれも可)1枚とする。画材として油絵、水彩画、パステル画、クレヨン画、色鉛筆画などのほか、技法としてコラージュや半立体表現(厚さ10mm程度まで)も可とします。ただし、壁面掲示に耐えられるものとしてください。

応募資格・応募登録 犬山市内の小学校、中学校に通う児童・生徒とします。事前登録の必要はありません。

作品の提出方法 学校の指示により、犬山市教育委員会まで提出してください。作品の裏に学校名・学年・氏名(ふりがな)を記入してください。

各賞

優秀賞 2点(賞状、副賞5千円の図書券)

犬山市長賞 2点(賞状、副賞3千円の図書券)

犬山市教育長賞 3点(賞状、副賞2千円の図書券)

入選 20点(賞状、副賞1千円の図書券)

作品の返却 作品展示会終了後に学校を通して返却します。

全体スケジュール(絵画・写真コンクール共通事項)

応募作品受付 9月1日(金) 9月15日(金) 期限内に必着とします。) 入賞者の発表:10月下旬ごろ入賞者個人または入賞者の学校に通知します。

表彰式: 11月25日(土) 13:30-

犬山市国際観光センター「フロイデ」で行います。入賞者は参加してください。

入賞作品展示会: 11月25日(土) 12月3日(日)

犬山市国際観光センター「フロイデ」1階エントランスホールにて展示予定です。

審査委員会

委員長 瀬口哲夫(犬山市都市景観審議会会長)

委員 石田 隆(犬山市都市景観審議会委員)

小川盛雄(犬山市文化協会会長)

須賀陽子(犬山市立城東小学校校長)

著作権 応募作品に関する著作権、著作権は犬山市に帰属します。

3|実行委員会

委員長 松本直司(名古屋工業大学教授)

委員 犬山市都市整備部建築課

海道清信(名城大学教授)

富岡義人(三重大学助教授)

杉野 丞(愛知工業大学教授)

このひとつひとつの用水、あるいは全体としての用水網を再び見直し、都心がさまざまに抱える課題の解決に活かしてゆく提案を求めます。

敷地は金沢の旧市街地内とし、位置や広さ等は提案者の自由といたします。対象とする用水は特定用水でも用水網全体でもよしとします。

応募資格 日本建築学会の正会員、準会員とし、個人でもグループでも応募が出来ます。グループで応募の場合、少なくとも代表者は正会員、準会員であることを要します。

応募登録 p.121の応募登録申込書に、必要事項(氏名、会員番号、所属、連絡先住所、電話番号) を記入のうえ7月10日(月) から8月31日(木) の間に日本建築学会北陸支部事務局まで郵送してください(当日消印有効)。なお登録料(郵便為替) と資料返送用封筒(A4版封筒に登録者の宛先を記入し390円分の郵便切手を貼付したもの) を同封してください。登録者には金沢市とその用水に関する基礎資料を送付します。登録料は応募一点につき2,000円です。郵便為替を郵便局で購入し、受取人を日本建築学会北陸支部と記入して同封してください。

質疑 課題に関する質疑は、北陸支部宛の郵便またはe-mail(aij-h@p2222.nsk.ne.jp) で7月10日(月) から8月31日(木) の期間、受け付けます。回答は北陸支部のホームページに随時掲載いたします。

応募作品提出 1作品A1判1枚にまとめ(パネル、ボードは使用しないこと) 9月19日(火) から9月22日(金) までの間に日本建築学会北陸支部に郵送または宅配便により提出してください(当日消印有効)。直接持参は受け取りません。応募作品カード(建築雑誌6月号に添付のもの) に必要事項を記入し、封筒に密封して作品の裏面に剥がせる用に貼付してください。作品中には応募者、設計者が推測できるような事項やマーク等は表示しないでください。

全体スケジュール

応募登録受付期間 7月10日(月) 8月31日(木)

質疑受付期間 7月10日(月) 月31日(木)

応募作品受付期間 9月19日(火) 9月22日(金)

審査会 10月11日(水) 13:00。於:日本建築学会北陸支部

入賞発表 10月中旬、入賞者に通知します。

表彰式 10月下旬、於金沢市

入賞作品展示会 10月下旬 11月下旬、於金沢市

表彰

最優秀賞 1点(賞状・副賞10万円)

優秀賞 3点(賞状・副賞5万円)

市長賞 3点(賞状・記念品)

提案競技審査委員会

委員長 水野一郎(金沢工業大学教授)

委員 竺 覚暁(支部長・金沢工業大学教授)

坂本英之(金沢美術工芸大学教授)

熊澤栄二(石川工業高等専門学校教授)

遠藤 新(金沢工業大学講師)

河原 清(金沢市企画課課長)

2|小中学生対象絵画コンクール「おいでねんせ 勝山のイトコ教えます」

主催 日本建築学会北陸支部

共催 勝山市(主管:教育委員会)

課題 おいでねんせ 勝山のイトコ教えます

あなたのまちの素敵な場所を紹介してください。あなたも「ふるさと元気博物館(勝山市エコミュージアム)」の仲間です。大好きな遊び場、気に入った風景を紹介してください。

北陸支部

会員対象提案競技を金沢市、小中学生対象絵画コンクールを福井県勝山市と石川県野々市町、写真コンクールを石川県野々市町にて行う。

実行委員会

委員長 水野一郎(金沢工業大学教授)

委員 竺 覚暁(支部長・金沢工業大学教授)

川崎寧史(金沢工業大学助教授)

坂本英之(金沢美術工芸大学教授)

葉袋 奈美子(福井大学講師)

熊澤栄二(石川工業高等専門学校教授)

河原 清(金沢市企画課課長)

1|会員対象提案競技「用水を活かして美しくまちをつくる」

主催 日本建築学会北陸支部

共催 金沢市(主管:企画課)

後援 石川県建築士会、日本建築家協会北陸支部、北國新聞社、NHK金沢放送局

課題 美しくまちをつくる、むらをつくる

魅力的なまちづくり、むらづくりの計画案を提案してください。必ずしも提案の現実性にはこだわりませんが、今後の金沢市のまちづくりに参考となるような説得力ある提案を望みます。

テーマ 用水を活かして美しくまちをつくる

今、さまざまな問題を抱えた都心の再生が地方都市共通のテーマとなっています。曰く「都心居住」「都心の賑わい」「都心文化」「都心交通」「水と緑」「美しさ」「アメニティ」「安心・安全」「住民参加」等々。こうした問題解決に対し、金沢の個性のひとつである街中を流れる用水を活かすことができないかが当競技のテーマであります。金沢の用水網は農業用水や都市用水でもあり、地域防衛の惣構掘でもありましたが、快適な環境や美しい景観の形成にも寄与してきました。

応募資格 勝山市の小学校に通う児童・生徒とします。

応募作品提出 下記のいずれかの方法でご応募ください。

- 1 応募者の通学する学校を通じて勝山市教育委員会まで提出してください。作品の裏に学校名、学年、氏名を記入してください。
- 2 勝山市教育委員会あてに、直接提出してください。作品の裏に学校、学年、氏名を記入してください。

応募作品提出期間 9月19日(火) 9月22日(金)

審査会 10月10日(火)

入賞発表 10月中旬、学校を通じて入賞者に通知します。

入賞作品展示会 10月下旬 11月下旬、於・勝山市

勝山市絵画コンクール審査委員会

委員長 葉袋 奈美子(福井大学講師)

委員 山 範男(勝山市教育長)

古川 章(元美術教諭)

表彰

優秀賞 2点(賞状・副賞)

勝山市長賞 2点(賞状・副賞)

勝山市教育長賞 3点(賞状・副賞)

入選 20-30点(賞状)

3|小中学生絵画コンクール「こんなまちにすみたいな 野々市の理想像」

主催 日本建築学会北陸支部

共催 野々市町、野々市町教育委員会、(財)野々市町情報文化振興財団

後援 石川県建築士会、日本建築家協会北陸支部、北國新聞社、NHK金沢放送局

課題 こんなまちにすみたいな 野々市の理想像

将来あなたが住んでみたい、誇れる理想の野々市町を自由に描いてください。

応募資格 野々市町の小中学校に通う児童・生徒とします。

応募作品提出 応募者の通学する学校を通じて野々市町教育委員会まで提出してください。作品(4ツ切 381×541)の裏に学校名、学年、氏名を記入してください。

応募作品提出期間 9月19日(火) 9月22日(金)

審査会 10月10日(火)

入賞発表 10月中旬、学校を通じて入賞者に通知します。

入賞作品展示会 10月下旬 11月下旬、於野々市町情報交流館カメラア

野々市町小中学生絵画コンクール審査委員会

委員長 川崎寧史(金沢工業大学助教授)

委員 北 一也(野々市町教育委員会学校教育課参事)

今橋克寿(野々市町情報交流館ディレクター)

北 清志(野々市町美術文化協会会長)

表彰

優秀賞 2点(賞状・副賞)

野々市町長賞 2点(賞状・副賞)

野々市町教育長賞 3点(賞状・副賞)

入選 20-30点(賞状)

4|写真コンクール「野々市町の魅力と美しさ」

主催 日本建築学会北陸支部

共催 野々市町、野々市町教育委員会、(財)野々市町情報文化振興財団

後援 石川県建築士会、日本建築家協会北陸支部、北國新聞社、NHK金沢放送局

課題 野々市町の魅力と美しさ

野々市町の歴史や文化、自然によって構成された美しい風景や魅力的なまちなみなどの写真を撮影してください。また、その写真により表現された魅力に対するあなたの思いを百字程度のコメントを書いて添付してください。

応募資格 野々市町在住の人とします。

応募作品提出 野々市町情報交流館カメラアまで、郵便、宅配便で送付(当日消印有効)するか、または持参してください。

応募作品提出期間 9月19日(火) 9月22日(金)

審査会 10月10日(火)

入賞発表 10月中旬、入賞者には通知します。

入賞作品展示会 10月下旬 11月下旬、於野々市町情報交流館カメラア

野々市町写真コンクール審査委員会

委員長 川崎寧史(金沢工業大学助教授)

委員 高橋賢一(野々市町教育委員生涯学習課長)

今橋克寿(野々市町情報交流館ディレクター)

内村栄一(野々市町文化協会会長)

表彰

優秀賞 1点(賞状・副賞)

野々市町町長賞 2点(賞状・副賞)

入選 5-10点(賞状)

近畿支部

近畿支部では、丹波市を対象に建築・都市の設計・計画提案を募集する支部会員の部と、箕面市で一般や小中学生による写真や絵画を募集する一般/小中学生の部の、二つの部門の事業を行います。

主催 日本建築学会近畿支部

共催 丹波市、箕面市、日本建築学会近畿支部都市計画部会

後援 兵庫県丹波県民局、兵庫県立人と自然の博物館、(財)兵庫丹波の森協会 箕面市教育委員会、(社)日本建築家協会近畿支部、(社)兵庫県建築士会、(社)大阪府建築士会、(以下予定)新聞社 テレビ局など

1|支部会員の部 応募規程

課題 SCENARIO-TAMBA

丹波市佐治市街地を舞台に、定住と交流のふるさととなる魅力的なまちづくりの計画案を提案してください。今後の丹波市のまちづくりの「シナリオ」として説得力のある提案を望みます。提案の内容によっては同市の施策として具体化の可能性もあります。

兵庫県丹波市の概要 丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、市内西部を南北に日本標準時子午線(東経135度線)が通り、北東では京都府、南東では篠山市、南西では多可町、北西では朝来市と接しています。阪神間からJRや自動車で約1時間30分 2時間の圏域です。地形は、中国山地の東端に位置し、急斜面をもった山々による中山間地域となっています。その山々の接点を縫うようにして二大河川の源流が走っています。ひとつは瀬戸内海へ注ぐ加古川とその上流河川であり、もうひとつは日本海へ注ぐ由良川の上流河川(黒井川、竹田川)です。特に市内の石生の「水分水」は海拔95mに位置し、日本一低い中央分水界となっています。

丹波市の人口は70,813人(平成17年国勢調査速報値)で、近年は減少傾向にあり、少子高齢化も進んでいます。市域は面積493.28平方キロメートルで、県内でも有数の広さです。現在、丹波市では、「人と自然の交流文化都市」を将来像に掲げ、参画と協働によるまちづくりを進めています。

提案テーマ 丹波市のこれからの「シナリオ」を、宿場町の面影を今に留める青垣地域佐治市街地を対象に、ストリート・ファニチャーや、建築、あるいは、まちなみづくりなど、応募者の自由な設定により提案してください。またソフト面を考慮した提案も考えられます。

佐治市街地は豊かな森に囲まれた、歴史的な景観が残る趣きのあるまちです。近年、人口の減少と高齢化、青垣支所の移転や郊外大規模店舗進出の影響から、地域の活力が低下しつつあるものの、地域住民によるまちづくり活動が展開され、夏には帰省者に地域のよさを再認識してもらう「佐治川の夕べ」、秋には空き店舗や古民家を活用した祭り「丹波八宿青垣の秋」が行われています。また、丹波布の手織・草木染めの体験や青垣日本画展の開催など地域観光資源の活用とともに、まちづくり交付金やコミュニケーション型県土づくりモデル事業などにより、みちづくり・かわづくりを意識的に取り組んできました。このような、地域の課題と活かすべき資源を前提に、佐治市街地を対象とした定住と交流の美しいふるさとづくりを提案してください。具体的なシナリオの例としては、伝統的な町家など歴史的資源などを活用したまちなみ整備の提案、定住のための快適な居住地の提案、ゆとりとにぎわいのある交流空間の提案などが考えられます(詳しくはwww.city.tamba.hyogo.jpに示す資料をご参照ください)。

応募資格・応募点数

1 応募の代表者は、本会個人会員もしくは準会員(作品提出時までの入会手続きを含む)であることとします(共同制作者は会員外でも可)。

2 個人での応募または同一メンバーで構成されるグループで応募する場合は、1点のみとします。

要求図面等

1 A1判用紙(594×841mm)1枚以内に提案をまとめてください。

2 表現方法は自由としますが、パネル、ボードは使用しないでください。

3 必須の項目や図面は特に決めていません。www.city.tamba.hyogo.jpに示す資料等から判断し、各応募者が自由に課題を設定し提案してください。なお、質疑応答は特に行いません。

4 作品中には、作成者が推測できる情報等を表示しないでください。

応募登録 p.121の応募登録申込書に、必要事項(氏名、会員番号、所属、連絡先住所、電話番号、メールアドレス)を記入のうえ8月18日(金)17:00までに日本建築学会近畿支部事務局まで郵送してください(必着)。

作品提出 日本建築学会近畿支部宛に、郵送または宅配便により9月29日(金)17:00までに到着するよう送付してください。直接持参は受け取りません。上記の応募登録申込書のコピーを、封筒に密封して作品の裏にはがせるように貼りつけてください。

スケジュール

1 応募登録受付

7月3日(月)8月18日(金)17:00(必着)

2 地元説明会

事前申込が必要です。希望者は8月18日(金)17:00までに、代表者氏名、住所、電話番号(携帯電話が望ましい)、メールアドレス、参加人数、専用バス(無料)の利用を希望するか、自家用車を利用するかを記入のうえ、日本建築学会近畿支部事務局まで郵送してください(必着)。バスの定員(35名)を超えた場合、バスを利用しただけの方のみに連絡します。説明会への参加者は、8月26日(土)13:00にJR福知山線柏原駅(丹波市柏原町柏原字松ヶ端1172-1)駅前ロータリーに集合してください。

3 説明会以外の視察

上記以外に現地視察を希望される方は、青垣住民センター(丹波市青垣町佐治114)内にある青垣公民館(開館時間8:30-17:00、土日も開館)で見学者用シールを受け取り、見学してください。

4 応募作品受付

9月15日(金)9月29日(金)17:00(必着)

5 入賞発表

10月中旬に入賞者に通知します。

6 表彰式・入賞作品展示会・入賞者による地元へのプレゼンテーション

10月中旬の「丹波八宿青垣の秋」の一環として、佐治市街地で行います。また、入選作品は、青垣住民センターをはじめ、兵庫丹波の森協会、兵庫県立人と自然の博物館等に巡回し展示します。詳細はwww.city.tamba.hyogo.jpでお知らせします。

審査委員会

委員長 鳴海邦碩(大阪大学教授)

委員 足立元(丹波市助役)

出江寛(建築家)

杉山茂一(大阪市立大学教授・日本建築学会近畿支部支部長)

中瀬 勲(兵庫県立大学教授・兵庫県立人と自然の博物館

副館長)

賞

最優秀賞1点(賞状、副賞10万円)

丹波市長賞1点(賞状、副賞5万円)

優秀賞5点(賞状、副賞3万円)

資料 本提案競技の資料や日程・連絡事項を丹波市のHPにアップロードします。(アドレス: www.city.tamba.hyogo.jp)

著作権等 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者および共催者は応募作品の公表等をする権利を使用することができます。また、作品が具体化する場合は、丹波市と別途協議を行うものとします。

作品の返却 返却を希望する方は、近畿支部事務局までお越しく下さい。なお表彰式より3カ月を経過したものは処分いたします。

2|一般/小中学生の部 応募規程

箕面市について 箕面市は、北緯34度49分、東経135度29分に位置し、大阪府の北西部にあって、東は茨木市、西は池田市、南は豊中市・吹田市、そして北は豊能町・兵庫県川西市と隣接しています。

市域は、東西約7.1km、南北11.7km、面積が47.84km²で、全体が都市計画区域に指定されています。その約60%を明治の森箕面国定公園を含む、緑豊かな中央山間地域(北摂山系)が占め、その南側に位置する西部・中部・東部地域と、北側に位置する北部地域とに大別できます。

名勝箕面山をはじめとする緑豊かな北摂の山々、その山々を源に市域を流れる箕面川や千里川に勝尾寺川、身近な市街地に残る里山や農地は原風景として本市を特徴づけるだけでなく、都市の魅力を高め、市民にやすらぎと潤いをもたらしています。

都市間の広域交通については、北部地域を除き、交通拠点としての大阪国際空港およびJR新大阪駅、自動車交通の国土軸としての名神高速道路や中国自動車道をはじめとする各種高速道路のインターチェンジ等へのアクセスは比較的良好です。

また、大阪都心部へは西部地域からは阪急電鉄箕面線、中部地域からは千里中央を起点とする北大阪急行線、東部地域からは北千里を起点とする阪急電鉄千里線により短時間で行くことができ、そのターミナルへのバス路線も整備されており、市外・都市部への交通ア

クセスはおおむね充足されています。

<http://www.city.minoh.osaka.jp/>

課題 私たちで創るこれからの箕面

まちの景観は、その地域で永く営まれてきた人々の暮らしが積み重なったものです。永く大切にされてきた山なみや、自然、文化、歴史のあふれる良好な住宅地など、まちの姿には箕面というまちの個性がいきいきと現れ出ています。こうした箕面の景観をより良くすることは、単に見た目を整えるだけではなく、地域の環境や暮らしを豊かなものにしてくれるはずで

そして、これまで培ってきた景観を大事にしながら、私たちひとりひとりが景観の担い手として箕面の景観づくりの方向性を共有し、つくりあげる、そんな景観まちづくりが大切といえるでしょう。

A|一般の部:写真コンクール「私たちが創るこれからの箕面」

私たちが誇れるまち、箕面市で、あなたがこれからもずっと大切にしていきたいと思う風景を1枚の写真に収めてください。箕面市の自然に根ざした美しい風景、暮らしぶりが感じられる住宅地の佇まい、歴史を今に伝えるまちなみ、暮らしに根ざした身近な公園や広場、景観づくりに取り組む人々の様子など、写真の対象物は問いません。

あわせて、そう思う理由、箕面の景観まちづくりを進めていくために取組みたいことや提案など、あなたの思いを書いてください。

B|中学生の部:絵画コンクール「私たちが暮らす箕面 こんなまちに住みたいな」

将来住みたいと感じるまちの姿や、今住んでいるまちのなかで素敵だなと思うところを生かした提案など、あなたの考える理想の箕面市を自由に描いてください。

提出作品

1 写真コンクール

撮影した写真は六ツ切程度(250mm×200mm)とし、A3版(297mm×420mm)1枚にレイアウトしてください。また、余白に写真のタイトルと写真へのあなたの思いを書いたコメントなどを記載してください。レイアウト、タイトル、コメントの字数などには特に制限はありません。デジタルカメラでの撮影も可とします。なお、裏面に撮影場所や撮影対象などを記載してください。

2 絵画コンクール

四ツ切画用紙(380mm×540mm、縦書き、横書きいずれも可)1枚。画材として油絵、水彩画、パステル画、クレヨン画、色鉛筆画などのほか、技法としてコラージュや半立体表現(厚さ10mm程度まで)も可とします。ただし壁面掲示に耐えられるもの。なお、描いた場所がわかる場合、その場所も記載してください。

応募資格

- 1 写真コンクール:特になし(小中学生、高校生、大学生も含む)
- 2 絵画コンクール:箕面市内の小中学校、中学校に通う児童・生徒とします。

応募登録 応募登録の必要はありません。

作品の提出方法

1 写真コンクールの提出先

箕面市都市環境部都市環境政策課まで持参(9月1日(金)9月8日(金)の平日9:00-17:00まで)または郵送・宅配便(9月8日(金)消印有効)により提出してください。作品の裏に住所・氏名(ふりがな)年齢・電話番号を記入してください。

2 絵画コンクールの提出先

以下のいずれかの方法により提出してください。

学校を通して提出する場合

学校を通して箕面市都市環境部都市環境政策課まで提出してください。この場合、作品の裏に学校名・学年・氏名(ふりがな)を記入してください。

直接提出する場合

箕面市都市環境部都市環境政策課まで持参(9月1日(金)9月8日(金)の平日9:00-17:00まで)または郵送・宅配便(9月8日(金)消印有効)により提出してください。この場合、作品の裏に住所・氏名(ふりがな)年齢・電話番号と学校名・学年を記入してください。

全体スケジュール

応募作品受付:9月1日(金)9月8日(金)

入賞者の発表:9月中旬ごろ

一般の部:写真コンクール 入賞者には通知します。

小中学生の部:絵画コンクール 応募者の学校に通知するとともに、入賞者にも直接通知します。

表彰式:未定(10月初旬を予定)

メイプルホールにて行います。入賞者は参加してください。

入賞作品展示:9月30日(土)10月11日(水)会場はメイプルホール
審査委員会 学識経験者、地元美術関係者、市内美術教育関係者など

賞

1 一般の部:写真コンクール

優秀賞1点(賞状、記念品)

箕面市長賞2点(賞状、記念品)

入選5点(賞状、記念品)

2 小中学生の部:絵画コンクール

優秀賞2点(賞状、記念品)

箕面市長賞2点(賞状、記念品)

箕面市教育長賞3点(賞状、記念品)

入選30点(賞状、記念品)

著作権 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者および共催者は応募作品の公表等をする権利を使用することができます。

作品の返却

1 写真コンクール

返却を希望する方は、箕面市都市環境部都市環境政策課までお越しください。なお、表彰式から3カ月を経過したものは処分します。

2 絵画コンクール

原則として入賞作品展示終了後に学校を通して返却します。

中国支部

主催 日本建築学会中国支部

共催 廿日市市

課題 美しくまちをつくる、むらをつくる

魅力的なまちづくり、むらづくりの計画案を提案してください。必ずしも提案の実現性にはこだわりませんが、今後の宮島町のまちづくりに参考になるような説得力のある提案を期待します。

広島県廿日市市宮島町の概要 宮島は長さ約9km、幅約6km、面積30km²の小さな島で、人口は2136人(2004年)を数えます。西岸を幅わずか500mの大野瀬戸を挟み、広島湾の中に浮かぶ島です。2005年の合併により現在は、広島県廿日市市宮島町となっています。

宮島は日本三景のひとつに数えられるとともに、瀬戸内海国立公園の一角として特別名勝・特別史跡、風致地区、天然記念物などの指定を受けています。島内には、弥山、駒ヶ林、岩船岳山塊の山々が

あり、いずれも海岸から急にそそりたっており、居住地域は海岸沿いの小さなエリアに限られています。1996年に世界文化遺産に登録された厳島神社は、国内だけでなく海外にもよく知られ、多くの観光客を集めています。門前町には、江戸末期から明治期にかけて建設された町屋が数多く残り、現在伝統的建造物群保存地区指定も視野に入れた調査が行われています。

廿日市市では2005年8月に「廿日市市観光まちづくり懇話会」を立ち上げ、「観光地宮島のグレードアップ施策」についての検討が行われています。そこでは、74のプランと、その中から実施時期と実施主体を明確化した50のアクションプランがまとめられており、新しい観光スタイルへの対応として自然の活用やテーマ性のある観光ルートの開発、持続可能な宮島観光実現のための活動支援と体制づくりとして自然と文化の保全と継承や観光施策推進体制の再構築などが挙げられています。今後、歴史、文化、自然を尊重したまちづくりが活発化していくと想定されます。

廿日市市宮島町のホームページ <http://www.hiroshima-cdas.or.jp/miyajima/>

テーマ 美しいまちの再生

世界文化遺産のまちに相応しい美しいまちの再生をテーマとします。対象地の範囲は、厳島神社の門前町一帯とします。具体的な対象地を各自設定して提案してください。住宅、通り、路地、水辺など、対象の設定も自由です。1箇所だけでなく、複数箇所にまたがる提案でもかまいません。

宮島は、江戸末期から明治期に建築された古民家が数多く残り、世界文化遺産である厳島神社とあわせて、観光のポテンシャルとしては非常に高い評価が可能です。現在伝統的建造物群保存地区指定も視野にいれた調査も進められており、観光対象も厳島神社だけでなく、町なか観光へと、今後シフトしていくことが想定できます。旅館やギャラリーなどでは、古民家を再生して活用する事例も散見されます。厳島神社参拝のメインの通りである、表参道商店街の1本山側の通りでは、特に古民家再生の事例が集まり、近年町家通りと呼ばれはじめています。

また、門前町一帯は、古くからのまちで自動車交通に対応しておらず、歩いて暮らす生活が一般化している地域でもあります。現代の都市空間としては、非常に稀な状況にあるといえます。歩いて暮らせるまちづくりを構想するには絶好のフィールドです。あわせて、既存の地域コミュニティは総代会と呼ばれ、しっかりと機能しています。「宮島町並みを考える会」をはじめ市民団体の活動も活発化しつつあります。

一方で、若年層の島外流出、少子高齢化、景気低迷、観光客の減少、台風による被災など、まちづくりの課題も多く抱えています。観光を尊重するか、生活を尊重するかといった、観光地特有の議論もしばしば耳にします。

今回の提案競技では、これまであまり注目されることが少なかった宮島のまちを対象とし、歴史、文化、自然、風景など、宮島のまちがもつポテンシャルを活かしながら、新しく美しいまちを再生するための提案を期待しています。

要求図面等

- 1 A1判用紙(594×841mm)1枚以内に提案をまとめてください。
- 2 表現方法は自由としますが、パネル・ボードは使用しないでください。
- 3 必須の項目や図面は特に決めていません。各応募者が課題を設定し、提案してください。なお、質疑応答は特に行いません。

応募資格・応募点数

- 1 応募の代表者は、本会中国支部の所属個人会員もしくは準会

員(作品提出時までの入会手続き者を含む)であることとします(共同制作者は会員外でも可)。

2 個人での応募または同一メンバーで構成されるグループで応募する場合は、1点のみとします。

応募登録 応募登録は行いません。

作品提出 日本建築学会中国支部宛、郵送または宅配便により、9月20日(水)までに送付してください。p.121の応募登録申込書に必要事項を記入し、封筒に密封して作品の裏にはがせるように貼りつけてください。作品中には、作成者が推測できるマーク等を表示しないでください。

全体スケジュール

地元説明会:8月5日(土)9:30-宮島町商工会館4階に集合してください。

応募作品受付:9月13日(水)9月20日(水)

入賞発表:10月上旬頃入賞者には通知します。また『建築雑誌』誌上とホームページ上で公表します。

表彰式:10月14日(土)13:30-

廿日市市役所7階会議室で行います。入賞者は参加してください。

入賞作品展示会:10月14日(土)17日(火)はつかいち美術ギャラリー、10月19日(木)24日(火)ぎやらい宮郷(宮島町)

審査委員会

委員 三分一 博志(三分一博志建築設計事務所代表)

松尾 彰(日本建築学会中国支部支部長)

菊川照正(宮島町並みを考える会会長)

脇田祥尚(広島工業大学助教授)

廿日市都市部部長

賞

最優秀賞 1点(賞状、副賞10万円)

優秀賞 3点(賞状、副賞5万円)

市長賞 3点(賞状、記念品)

著作権 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者は本提案協議の主旨に照らして、応募作品の公表等をする権利を使用することができるものとします。

作品の返却 返却を希望する方は、支部事務局までお越しください。なお表彰式より3カ月を経過したものは処分いたします。

A|江田島市を対象とした絵画コンクールの部

課題 未来の江田島・夢プラン こんなまちに住みたいな(絵画コンクール)

あなたが住んでみたい理想の江田島市、江田島市で大切にしたい場所や行事、こんなふうにするともっと魅力的になる場所などを自由に描いてください。

応募資格 江田島市の小学校、中学校に通う児童・生徒とします。

作品の提出方法 学校を通して江田島市教育委員会事務局・学校教育課まで提出してください。作品の裏に、学校名・学年・氏名(ふりがな)作者の一言(場所や内容、工夫したこと、夢などを自由に)を記入した用紙を貼り付けてください。用紙は、募集のチラシに付けていますので、切り取って使ってください。

全体スケジュール

江田島市教育委員会との事前協議:2月 3月

江田島市教育委員会・江田島市への正式要請:4月初旬

応募作品受付:9月1日(金)9月30日(土)

入賞者の発表:10月中旬ごろ応募者の学校に通知します。

表彰式:10月下旬ごろ江田島市役所にて行います。入賞者は参加してください。

入賞作品展示: 11月1日(水) 11月15日(水) 江田島市役所ロビー
作品の返却 作品展示会終了後に学校を通して返却します。

賞

1 小学生部門

優秀賞 1点(賞状、図書カード)
市長賞 1点(賞状、図書カード)
教育長賞 1点(賞状、図書カード)
支部長賞 1点(賞状、図書カード)
入選 10点(賞状、図書カード)
参加賞

2 中学生部門

小学生部門と同様、ただし、図書カードの金額は要検討。
審査委員会 市内美術教育関係者、市長、教育長、支部長など
提出作品 四つ切画用紙(380mm×540mm、縦書き、横書きいずれも可)1枚。画材として油絵、水彩画、パステル画、クレヨン画、色鉛筆画などのほか、技法としてコラージュや半立体表現(厚さ10mm程度まで)も可とします。ただし壁面掲示に耐えられるもの。
応募登録 登録の必要はありません。
著作権 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者は本コンクールの主旨に照らして、応募作品の公表等をする権利を使用することができるものとします。

B|写真コンテストの部(二葉の里歴史の散歩道フォト百選コンテスト)

テーマ「歴史と平和、緑とやすらぎ」をテーマとし、二葉の里歴史の散歩道(広島市東区・中区内)の魅力伝える作品を募集します。

具体的には、散歩道に連なる神社・仏閣や沿道の史跡、周囲の街並みなどの魅力ある風景、周辺の自然景観、祭りや伝統行事などで今昔の風景、平成17年秋に実施した東区八区覧会でのイベントの風景などを撮影したものを期待します。

二葉の里歴史の散歩道

http://www.cgr.mlit.go.jp/cgkansen/yumekaidou/y_model/model_04.html

<http://yutaka901.fc2web.com/page9zz22a.html>

応募資格 どなたでも自由ですが、一人3点までとさせていただきます。

提出作品

1 四つ切の写真サイズ(4Pまたは4Pワイドも可)で、カラーまたは白黒の作品。営業用のものではなく未発表の自作品に限ります。
2 歴史や文化を感じる理由、美しい風景や街並みと思う理由、または将来このような街並みや風景にしたいなど、あなたの思いを書いたコメントを添えてください。字数などには特に制限はありません。
作品の提出方法 広島市東区役所区政振興課内二葉の里歴史の散歩道フォト百選コンテスト事務局まで持参(9月1日(金) 11月30日(木)の平日8:30-17:00まで)または郵送・宅配便(11月30日(木)消印有効)により提出してください。作品の裏に住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を記入してください。

審査

二葉の里歴史の散歩道ブラッシュアップ研究協議会会員
日本建築学会中国支部記念事業実行委員会委員
広島市教育委員会文化財担当課長
広島市東区長

賞

1 歴史部門

金賞 1点(賞状、副賞3万円、記念品、写真集)
銀賞 2点(賞状、副賞2万円、記念品、写真集)
銅賞 3点(賞状、副賞1万円、記念品、写真集)

2 街並み部門

優秀賞 1点(賞状、図書券3万円、記念品、写真集)
支部長賞 1点(賞状、図書券2万円、記念品、写真集)
区長賞 1点(賞状、図書券2万円、記念品、写真集)
特選 6点(賞状、図書券5千円、記念品、写真集)

3 部門共通

入選 30点(賞状、図書券500円、写真集)
佳作 55点(賞状、写真集)
応募作品が少ない場合は入賞を削減する場合があります。

主催

主催 二葉の里歴史の散歩道ブラッシュアップ研究協議会
共催 日本建築学会中国支部、広島市東区役所
協力 二葉の里歴史の散歩道ボランティアガイドの会

全体スケジュール

応募作品受付:平成18年9月1日(金) 同年11月30日(木)の3ヵ月間
入賞者の発表:平成19年1月上旬ごろ、各申込者へ直接ハガキで通知します。

表彰式:平成19年1月予定、東区役所にて行います。入賞者は参加してください。

入賞作品展示:平成19年2月予定、広島市内各施設(東区役所、まちづくり市民交流プラザ、旧日銀広島支店ほか)

作品の返却 応募作品は返却いたしません。

著作権 応募作品の著作権は作者に帰属しますが、主催者の諸活動に伴う広報、冊子への掲載等においては、作者に無断で使用できるものとし、使用媒体、使用期間などの制限はないものとします。

四国支部

建築に関する学術・技術・芸術の進歩発展を図ることを目的とした学術団体である日本建築学会が、に創立120年を迎えることになる。それを記念して学会では「社会とともに・建築」をメインテーマとしてさまざまな事業を企画している。

提案競技『美しくまちをつくる・むらをつくる』は、それらの記念事業の一環として、四国支部が主催して行う事業である。

主催 日本建築学会四国支部

共催 高知県香美市、特定非営利活動法人高知まちづくり支援ネットワーク

後援 日本建築家協会四国支部、高知県建築士会、高知県設計監理協会、高知県建築士事務所協会

テーマの考え方「美しい」「美しく」とは、単になんとなくきれいである、というのではなく、「人に対して魅力的であるということ、人を惹きつける、行ってみたいくなる、そこに居たくなる、住みたくなるような所」であり、「きれいであって、健康で、活気がある、または気持ちや和む、落ち着く」など、さまざまな要素を持たなければならない。

美しい環境・景観は与えられるものではない。市民・住民の不断の努力によって作りあげられたものである。

「美しくまちをつくる・むらをつくる」というテーマは、市民の側に主体的に美しいまち・むらをつくらうという意識をもってもらいたいという意味を込めている。市民にそのような意識をもってもらうためには、デザインによってまちやむらはどのように美しくつくられるかが示されなければならない。そのことを、建築・都市デザイナー、建築家などのデザインの専門家、およびそれを目指す学生などがその先導を果たしていかなければならない。さらにこのような意識を子どもと

きから育てるために、子どもたちにも美しいまちづくりを考える楽しさを味わってもらいたい。

本提案競技は、以上の考え方の上に立って、デザインの持つ力、重要性を社会に対して示す場を設けようとするものである。

対象とする地区 香美市

平成18年3月1日(水)より合併して新市が誕生することを記念して行う。

応募規定

1|一般の部

課題「ここにしかない個性豊かな景観とまちづくり・香美市の魅力と美しさ」写真コンクール

対象地 香美市全域(要求図面等)

撮影した写真と、写真への思いを描いたコメントなどをA3版(297×420mm)1枚以内にまとめてもらう。レイアウト、写真の枚数や大きさ(デジタルカメラ撮影可)、コメントの字数などには特に制限は加えない。

応募資格 特になし(小中学生、高校生、大学生も含む)

応募登録受付 登録の必要はない

提出方法 香美市まで持参、または郵送、宅急便。作品の裏に住所、氏名、年齢、電話番号を記入。

応募作品受付 8月末頃

表彰式 10月末頃 プラザ八王子(予定)

審査委員

賀村 智(日本建築学会四国支部長)

大谷英人(高知工科大学教授)

門脇慎夫(香美市長)

原 初恵(香美市教育長)

中島健蔵(写真家)

賞

優秀賞1点(賞状、1万円の図書券)

市長賞2点(賞状、5千円の図書券)

入選3点(賞状、3千円の図書券)

2|小中学生の部

課題「私たちが暮らす香美 こんなまちに住みたいな」絵画コンクール

対象地 香美市全域

要求図面等 四つ切画用紙(380×540mm)縦書き、横書きいずれも可。画材として、油絵、水彩画、パステル画、クレヨン画、色鉛筆などのほか、技法としてコラージュや半立体的表現(厚さ10mm程度まで)も可。ただし壁面掲示に耐えられるもの。

応募資格 市内の小中学校、中学校に通う児童・生徒

応募登録受付 登録の必要はない

提出方法 学校を通して教育委員会まで。作品の裏に学校名、学年、氏名(ふりがな)を記入。

応募作品受付 8月末頃

表彰式 10月末頃 プラザ八王子(案)

審査委員

賀村 智(日本建築学会四国支部長)

大谷英人(高知工科大学教授)

門脇慎夫(香美市長)

原 初恵(香美市教育長)

北 泰子(香美市立美術館館長)

中島健蔵(写真家)

賞

優秀賞1点(賞状、5千円の図書券)

市長賞1点(賞状、3千円の図書券)

教育長賞1点(賞状、2千円の図書券)

入選10点(賞状、1千円の図書券)



九州支部

主催 日本建築学会九州支部

共催 熊本市、熊本大学工学部まちなか工房、熊本市現代美術館

後援予定 熊本県建築士会、熊本県建築士事務所協会、日本建築家協会熊本支部ほか

1|支部会員の部 **応募規程**

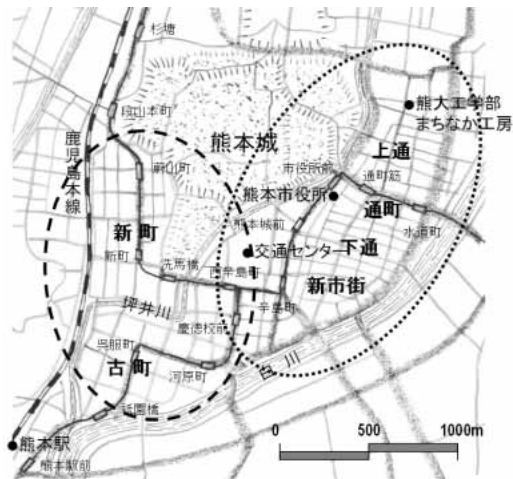
課題「城下町くまもとに住みつくと」 まちなかライフをさらに楽しむための仕掛けとしてのデザイン

魅力的なまちづくりの計画案を提案してください。必ずしも提案の実現性にはこだわりませんが、今後の熊本市のまちづくりの参考になるような説得力のある計画案を望みます。

対象地の概要とテーマ 400年前の城下町に成立の起源を置く熊本市は人口67万人、都市圏人口約105万人。その中心部は、今日まで城下町の町割りをほぼ継承しているなど、熊本城を中心に異なる時代層が積み重なった市街地を形成しており、それがまちの個性と魅力を生み出しています。中心市街地の骨格を形成する商店街は、若者を中心に人通りも多く、他の地方都市に比べて活気があるとの指摘があります。しかし最近40年の変化を見ると、人口や事業所の郊外移転が進み、城下町と呼ばれるエリアでは、空屋や空地が増加するなど空洞化が進んでいます。特にこの数年は大型郊外ショッピングセンターの建設が相次ぎ、中心商店街の来訪者も徐々に減少し始めました。

今回のまちづくり提案競技では、「城下町くまもと」が重ねたまちの年輪から個性や魅力をもっと引き出し、城下町の生活にこだわって、見つけたい・食べつきたい・住みつきたいと願っている人を満足させるような提案を求めます。また、その住まい手のこだわりが来訪者にも伝わり、城下町で過ごす時間を誰もが楽しめる、美しいまちづくりに貢献できればと考えています。

対象とする市街地は熊本城を東から南、西へ取り巻く旧城下町約200haです。熊本城域約100haでは来年の築城400年を記念した建造物の復元が進められています。対象とする旧城下町は中心商業地



と新町・古町地区の二つのエリアに大きく分けられます。前者は上通・下通・新市街アーケードを主要商業軸として周辺の上通並木坂、上乃裏、通町(鶴屋百貨店)、駕籠町、安政町、城見町、栄通り、銀杏通り、シャワー通りなどのユニークな商店街や飲食街、および交通センターと熊本阪神百貨店のある桜町地区などで構成されています。後者、新町・古町地区は、明治10年の西南の役で灰燼に帰しましたがその後、近世の町割を残しながら復興し、先の大戦では戦災を免れた結果、今も各所に城下町のたたずまいが息づいています。

なお提案に際して、対象地の中に具体的な空間を設定していただき、「城下町くまもとに住みつくる」ための、夢あるシーンの提案を期待しています。

応募登録 p.121の応募登録申込書に、必要事項(氏名、会員番号、所属、連絡先住所、電話番号)を記入のうえ7月21日(金)までに日本建築学会九州支部事務局まで郵送してください(消印有効)。なお登録料(郵便為替)と資料返送用封筒(A4判封筒に登録者の宛先を記入し、390円分の切手を貼ったもの)を同封してください。登録者には、熊本市の対象地に関する資料を送付します。登録料は応募1点につき2,000円です。郵便為替を郵便局で購入し、受取人に日本建築学会九州支部と記入して同封してください。

日本建築学会九州支部 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-14-18 福岡建設会館6階

TEL092-418-1611

要求図面等

- 1 A1判用紙(594×841mm)1枚以内に提案をまとめてください。
- 2 表現方法は自由としますが、パネル、ボードは使用しないでください。
- 3 必須の項目や図面は特に決めていません。資料等から判断し、各応募者が自由に課題を設定し提案してください。なお、質疑応答は特に行いません。

応募資格・応募点数

- 1 応募の代表者は、本会個人会員もしくは準会員(作品提出時までの入会手続きを含む)であることとします(共同制作者は会員外でも可)。
- 2 個人での応募または同一メンバーで構成されるグループで応募する場合は、1点のみとします。

作品提出 熊本大学工学部まちなか工房宛で、郵送または宅配便により、9月22日(金)までに送付してください(消印有効。審査会までに到着したものは受付ける)。直接持参は受け取りません。応募登録申込書に必要事項を記入し、封筒に密封して作品の裏にはがせるように貼りつけてください。作品中には、作成者が推測できるマーク等を表示しないでください。

熊本大学工学部まちなか工房 〒860-0848 熊本市南坪井町1-5 サンコスメディオ2

TEL096-326-9502

全体スケジュール

応募登録受付: 7月3日(月) 7月21日(金)

資料の提供: <http://morolab.arch.kumamoto-u.ac.jp/COMP/>(7月1日公開予定)

地元説明会: 7月29日(土)13:00- 熊本市役所別館(自動車駐車場)会議室(熊本市花畑9 TEL096-328-2591 会議室直通) 熊本市職員およびまちなか工房教員が現地を案内して説明します。

応募作品受付: 9月1日(金) 9月22日(金)

一次選考結果発表: 10月2日(月)入選者へは郵送通知する他、上記ホームページにも掲載します。

最終公開審査会と表彰式: 10月21日(土)13:00-17:00

(一次選考通過者は参加してください)

会場: 熊本市現代美術館ホームギャラリー、びぶれす広場

いずれも熊本市上通2-3 TEL096-278-7500

入賞作品展示会: 10月22日(日) 10月29日(日)

会場: 熊本大学工学部まちなか工房

審査委員会

委員長 工藤和美(建築家、東洋大学教授)

委員 幸山政史(熊本市長)

富士川一裕(都市計画家、工学部まちなか工房特任教員)

磯田節子(八代高等工業専門学校助教授)

竹下輝和(九州大学教授、日本建築学会九州支部長)

賞

最優秀賞1点(賞状、副賞10万円)

優秀賞3点(賞状、副賞5万円)

熊本市賞3点(賞状、副賞1万円)

著作権 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者は本設計競技の主旨に照らして、応募作品の公表等をする権利を使用することができるものとします。

作品の返却 返却を希望する方は、11月1日以降に熊本大学工学部まちなか工房までお越しください。なお表彰式より2カ月を経過したものは処分いたします。

2|一般/小学生の部 応募規程

以下の課題で、は一般の部、は小学生の部。

課題

「城下町くまもとのフォトカード」 写真コンクール

遠くの友人に紹介したい城下町の暮らし、観光で訪れた城下町熊本で印象に残った生活風景など、美しいまちとくらしの関係を捉えた写真にコメントを添え、フォトカードを作ってください。

「400年後の城下町くまもと」 図画コンクール

あなたが思い描く熊本の未来。「くまもとが、こんなまちになったらいいな」、「未来のひとには、こんなまちに住んでほしいな」と思う図画(平面作品)を描き、すてきな絵はがきを作ってください。

応募資格

特になし(小中学生、高校生、大学生も含む)。

熊本市内の小学校に通う児童とします。

提出作品

撮影した写真を官製ハガキサイズ(100×148mm)の用紙1枚に貼り付けてください。用紙の縦横使い、使用する写真の枚数や大きさ、カラー/白黒などに制限はありません。応募者を特定できるものでなければ、コメントを書いても構いません。デジタルカメラでの撮影はもちろん、パソコン上で編集しプリンターで印刷したものを貼っても構いません。裏面に連絡先(住所、氏名(ふりがな)、電話番号、メールアドレス等)および撮影場所、撮影意図などのコメントを記載してください。

官製ハガキサイズ(100×148mm)の用紙1枚に描いてください(平面作品)。平面作品であれば、用紙の縦横使い、画材は自由です。パソコンを使って描きプリンターで印刷したものでも構いません。応募者を特定できるものでなければ文章が入っても構いません。作品の裏面に学校名、学年、氏名(ふりがな)を記入してください。

注:品展示等の際には氏名や学校名などを掲示しますが、それ以外の裏面の情報は表示しません。

提出方法

熊本大学工学部まちなか工房まで持参(9月19日(火) 9月29日(金)の平日9:30-15:00まで)または郵送・宅配便(9月29日(金)消印

有効)により提出してください。(〒860-0848熊本市南坪井町1-5サン
コスメディオ2階、TEL096-326-9502)

小学校を通して熊本市役所花畑別館(都市整備局開発公園部市
街地整備課TEL096-328-2537)まで提出してください。

審査委員会

- 川畑雅弘(写真家)
- 最所美紀(熊本上通郵便局長)
- 両角光男(熊本大学大学院自然科学研究科教授)
- 有田 功(崇城大学芸術学部教授)
- 石井祐治(熊本市立黒髪小学校校長)
- 川野智子(熊本市教育委員会指導課指導主事)

賞

- 最優秀賞 1点(賞状、副賞図書券1万円)
- 熊本市賞 2点(賞状、副賞図書券5千円)
- まちなか工房賞 3点(賞状、副賞図書券3千円)
- 入選 10-15点(賞状)
- 最優秀賞 1点(賞状、副賞図書券5千円)
- 熊本市賞 2点(賞状、副賞図書券3千円)
- まちなか工房賞 3点(賞状、副賞図書券3千円)
- 入選 10-15点(賞状)

展示 と 両部門の作品(応募者多数の場合は予備選考通過作品)

を下記の日程で展示します。

日程 10月20日(金) 10月22日(日)

場所 びぶれす広場(熊本市上通町2番)ほか

全体スケジュール

地元説明会: 7月29日(土)13:00(支部会員の部と同じ)

応募作品受付: 9月19日(火) 9月29日(金)

入賞者の発表

入賞者には10月13日ごろ通知します。

応募者の学校に10月13日ごろ通知します。

表彰式: 10月21日(土)16:30-17:30、びぶれす広場にて行います。入
賞者は参加してください。

入賞作品展示: 10月21日(土) 10月22日(日)、びぶれす広場にて行
います。

作品の返却

返却を希望する方は、熊本大学工学部まちなか工房までお越しく
ださい。なお、表彰式から2カ月を経過したものは処分します。

品展示会終了後に学校を通して返却します。

著作権等 応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催
者は本コンテストの主旨に照らして、応募作品の公表等をする権利
を使用することができるものとします。また公表等の際には個人情報
の保護について十分な配慮をいたします。

----- 切り取り線 -----

支部提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」応募登録申込書

代表者	フリガナ	種別	会員	自宅	〒
	氏名	会員番号	No		
	所属(勤務先・部課・学校・学部学科)			勤務先	〒
メールアドレス				☎	
共同制作者	フリガナ			自宅	〒
	氏名				
	所属(勤務先・部課・学校・学部学科)			勤務先	〒
メールアドレス				☎	

代表者は本会個人会員であること。共同制作者が複数の場合は別紙に記入してください。